

ぎかいだより むらやま



写真/
楯岡サッカースポーツ少年団 (赤ユニホーム)

<http://www.city.murayama.lg.jp> 携帯からはコチラ→



万円を追加

☆戸沢果実選果場更新など



更新する戸沢果実選果場

補正予算のポイント！

◎戸沢果実選果場更新に7千125万円

J Aみちのく村山の戸沢果実選果場の老朽化に伴う更新工事で国からの補助です。

◎サクランボ雨よけハウス更新など2千648万円

1月の降雪により倒壊したサクランボ雨よけハウスの更新事業です。事業費の二分の一を補助するものです。

◎新体操用マット購入に600万円の助成

東京オリンピックで金メダルを目指すブルガリア新体操チームのキャンプ地として市民体育館に購入した新体操用マットに、スポーツ振興くじより600万円の助成がされました。

条例

◎村山市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用者負担に関する条例の一部を改正する条例

子ども・子育て支援法施行令の一部改正に伴う措置について、緊急を要し、議会を招集する余裕がないため専決処分したものです。

◎村山市個人情報保護条例の一部を改正する条例

マイナンバー法の一部改正する法律等の施行に伴い行うものです。

◎村山市税条例の一部を改正する条例

地方税法の一部改正に伴い改正を行うものです。

◎村山市工場立地法地域準則条件の一部を改正する条例

工場立地法の一部改正に伴い、引用条文の整理を行うものです。

◎固定資産評価審査委員会委員の再任

芦野祐助（大久保）

◎農業委員会委員の選任

農業委員会等に関する法律の一部改正に伴い、農業委員を新たに18名選任したものです。



助成により購入した新体操用マット

1億9,513

総額 131億2,513万円

出資法人の経営状況報告

土地開発公社

平成28年度は、「スマイルタウン二日町」を完了し、全区画で住宅建築が完了し、入居者数は18人となった。

新たに村山市からの依頼により「スマイルタウン鶴ヶ町」の造成事業を開始。29年度に用地を取得し、造成工事、分譲販売を行う。

今後は、市の若者定住促進施策である「村山市子育て応援・定住促進事業補助金」や「子育て応援すくすく手当」などをアピールしながら販売促進に一層の努力をすることとした。



造成されるスマイルタウン鶴ヶ町

なお、当期純損失は401万9千757円となり、前期繰越準備金を減額処理した。

○道の駅むらやまは、地域連携事業の一環として、村山産業高校、地元生産農家と協力しオリジナル商品の「いも煮国」を開発、販売し、ふるさと納税や浅草のまるごとにつぼん、県内外の道の駅などで販売した。



クアハウス基点のフラワーサポート事業

(財)余暇開発公社

基点レクリエーションセンター、道の駅むらやま、レストハウス東沢を中心とした各事業を展開した。

○クアハウス基点

例年通りの事業のほか、フラワーサポート事業を行い、造成した駐車場周辺に花や草木を植栽した。また長年の赤字体質からの脱却をめざし、中小企業診断士による経営診断を実施し、可能なものから導入や変更も行った。

○道の駅むらやま

生涯スポーツ推進事業などのほか、指定管理者として体育施設管理運営に当たっている。

(財)村山市体育協会

平成28年度は、第2回最上川スマイルマラソン大会が、1千122名の参加で行われた。そのほかに、ヨガ、産後ダンス、卓球、スポーツ吹き矢、ボディポテンシャル、エアバレーなどの教室を自主事業として開催した。

なお、平成28年度末における法人全体の正味財産期末残高は、2千784万円の前年度より23万円の増となった。

平成28年度一般財団法人村山市余暇開発公社の当期純利益金

単位：円

当期純利益会計区分	平成28年度	平成27年度	比較
法人・余暇開発事業	△819,908	△422,332	△397,576
クアハウス基点・健康づくり事業	△22,056,781	△20,931,284	△1,125,497
道の駅むらやま	16,667,857	17,301,401	△633,544

議員の辞職



矢口 正議員

矢口正議員より、健康上の理由で、辞職願いが提出され、議会最終日に、全会一致で可決されました。

ここが聞きたい 一般質問

Q & A

本定例会の一般質問は
6月1日・2日に6人の議員が行いました。
質問と答弁の内容を要約してお知らせします。

※一般質問のQ & Aは議員の原稿をそのまま掲載しています。



体育施設は余暇開発公社で管理

長南 誠 議員

Q 指定管理者制度を導入し13年を迎えた。職員の雇用問題等があり検討しているが制度の見直しを伺う。

A 公募による指定はなかった。制度の契約が3年から5年に変わっても終身でない限り雇用状態は変わらない。①公共施設管理公社設立は難しい。②公募による指定管理は行う。③行財政改革は雇用を検討しており図られる。具体的には体育施設の指定管理を余暇開発に移し、体協職員を余暇で採用する。

Q ローズキャンプへ向けての市長の意気込みを伺う。

A 来ていただき、市民が交流し、互いの文化を知ることが国際的な市民を育てる良い経験になると思う。体育に限らず文化交流

を進めることは、オリパラの大目標であり、今後も進めていき市民と盛りあげていきたい。村山市民のためになれば良いと思う。

世界の人々は仲良くし文化を交流し認めあわなければならない。



合宿地 市民体育館とローズキャンプ旗



道の駅も含めた今後の 駅西開発の方針は

菊池大二郎 議員

Q 道の駅の決算報告によれば厳しい経営状態だが原因は何か。

A 詳細な分析はしていないが通行量の減少、コンビニを含めた周辺の消費構造の変化が影響している。

Q 原因は制度や意識も含めた売れにくい体質的な問題では。箱モノや場所を変えたからといって従来と同じ意識づけでやっているとでは中長期的にみれば今と変わらぬ結果になるのでは。ところで実際に移転するのか。

A 将来的に移転するものと考えている。

Q 移転の時期は。移転の場合、既存施設の利活用は。

A 具体的な時期は把握していない。既存施設の購入希望業者もあり、多様な案も検討している。



国道13号線沿いでは県内初の道の駅であったが

Q 駅西ヤマザワ西側にマツキ自動車学校の教習場が開発されるといふ噂の真相は。

A 先方から提案があるのは事実。

Q 民間開発は大変ありがたい。ただ、仮に移設された場合、高速道路からの交通量

も考えれば駅前要素で一時間に数回の混雑が予想され、市民生活への影響も懸念される。

教習生が宿泊している東根により近いココス村山店周辺はどうか。

A 現状では、ココス周辺の開発は農振などで難しい。



稲作の30年問題による 農家への周知は

石澤祐一 議員

Q 国による米の生産調整は平成30年から廃止されることを受け、米の作付け過剰とならないよう、値崩れを懸念する農家側から需給を調整する枠組みを望む声が強く、全国40道県の農業再生協議会が国に代わり目安を設定する方向だが、山形県及び村山市での取り組み方法はどのようなか。また、ナラシ対策や転作奨励金（飼料用米・加工用米・大豆・そば等）は今後も変わらないのか。

A 県は需要に応じた県内の生産目安を定めて各市町村へ通知する方向。市でも地域農業再生協議会においてこれまで通り生産者に対し提示する。現在も生産者は自由に米が作れるという誤解を持っている人は多い。強

制的な転作から自主的な転作に変わるため、市の生産目標や制度について市報やパンフレットを作成しPRしていく。転作奨励金やナラシ対策は今後も同じと考えている。



米作付けした大区画ほ場



国保問題の解決のために 市ができることは

中里芳之 議員

Q 国保の単単位化で国保の構造的課題はどう解決されるのか。加入者にとって何がよくなるのか。

A 国の公費拡充で低所得者への支援が手厚くなる。

Q それは県単位化自体によるものではない。国保問題の根本的解決には、減らし続けてきた国庫負担割合を引き上げることが必要ではないか。

A 国は頑張っているが、医療費の伸びに追いつかない。

Q 医療費の伸びは国保に限定した問題ではない。県単位化で国保税が上がらないよう一般会計からの繰入も必要ではないか。

A 状況に応じていく。

Q 国保税や医療費の減免制度が機能し

ていない。周知方法の改善や、恒常的な低所得者に対する減免が必要ではないか。

A (周知方法について) 検討する。(恒常的な低所得者について) 具体的な例をあげてほしい。

Q 減免制度がどうしたら機能するのか

を考える責任は市にある。滋賀県野洲市のように、滞納解決だけでなく生活再建を支援する仕組みづくりを。相談窓口も減免制度もあるが、それを利用せずに逃げていく。



納税相談のようす



第7期介護保険料は据え置きを

川田律子 議員

Q 3年毎に改定になる第7期介護保険事業計画(平成30年〜32年)が今年度策定されるが、今後の計画について問う。保険料を決定するにあたり、第7期の介護給付費の見込み、及び準備基金の残高が大きく影響するがどのような見込みか。

A 介護給付費は、毎年約1億円ずつ伸びている。準備基金は平成29年度末で約1億8千万円位残る予定である。

Q 市内の高齢者の生活考えた時、第7期の保険料は上げない方が望ましいと思う。本市が県でも最下位なのは承知しているが、準備基金の取り崩しなどで対応出来ないか。

A 第6期計画で残った施設整備が第7期で予定されている。



高齢者住宅共生ホーム「わ」(上山市)

また東根市の広域型の施設に本市から20人程入所しており、給付費も伸びている。次期保険料は、策定委員会で決定するが、基金を取り崩しても若干の引き上げは否めないと思う。

Q 施設に入れない要介護者が増えてい

る。老々介護者などの中には、利用を控えているという話も聞く。非課税世帯の市独自の利用料の減免制度をつくる考えは。

A 保険料で減免はない。独自減免の考えはない。



「村山市小規模企業振興基本条例」の活用を

茨木久彌 議員

Q 地域に活力と賑わいをもたらす市内の小規模事業を支援する本市で初めての「村山市小規模企業振興基本条例」が制定され、小規模事業者にとって心強い条例であるがその支援方針は。

A 国や県の補助金制度に申請し不運にも不採択になった事業者なども含め、市に申請書を提出していただき審査の結果、交付が決定すれば経費の1/2〜1/3、上限37万5千円を補助金として支給する。

Q 市内の小規模事業者の現状は。

A 平成26年直近の商業統計によると10年前と比べ商業総数で139、小規模事業者172が減少しており特に地域にとって重要な小規模事業者の減少が著

しく厳しい状況になっている。

Q 条例にもあるように、市・経済団体など全ての者が小規模企業の果たす役割の重要性を理解し、一体となって取り組んでいく態勢が重要と思うが。

A まさにそのとおりであり条例にある

ように各団体と協力し合い支援していく。

Q かつて県内有数の商店街であった楯岡商店街の再興について。

A 課題もあるが市の中心商店街として手助けしていきたい。



現在の楯岡商店街

審議結果報告

(6月定例会において賛否の分かれた議案についてのみ記載しました)

議案等の名称	議員名	議決結果	市政・公明クラブ						日本共産党 村山市議団		改革クラブ			無党派			賛成	反対	
			高橋菜穂子	石澤祐一	長南誠	秋葉新一	茨木久彌	海老名幸司	川田律子	中里芳之	菊池大二郎	結城正	矢口正	菊池貞好	佐藤昌昭	大山正弘			森一弘
			市長提出議案	条例	個人情報保護条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○			○
請願	請願1号	農業者戸別所得補償制度の復活を求めて	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	×	×	議	6	8	
発議	発議1号	組織犯罪処罰法改正案の撤回・廃案を求める意見書	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	×	○	×	議	6	8	

正副議長及び監査委員は会派に属しません。議長は可否同数の場合以外は採決に加わりません。

○ = 可決 × = 否決 ○ = 賛成 × = 反対 欠 = 欠席 退 = 退席

とどけ!
市民の声



4月25日～26日

議会報告会開催

議会基本条例で定められた議会報告会が大倉・袖崎・戸沢・大高根の各市民センターで開催されました。29年度一般会計予算、特別会計予算などの概要を説明し、各常任委員会での審議内容、28年度補正予算を報告しました。また各地域の「まちづくり協議会」について意見交換会を行いました。

各地域とも活発な意見や質問が多く出されていました。議会報告会は市民の声を届ける貴重な場所です。今後とも多くの市民の皆様の参加を目指して活動して参ります。

市民の意見・要望対応

大倉地域

・バラ公園周囲の杉林にツルが絡んでいて、整備すべきである。
・有害鳥獣について、

地区に設置するには年数がかかる。実施する時、県・国はやってくれるのか。他市では予算化されている。村山市でもやってほしい。



議会報告会での意見を受け、取り組んでいるか。
・新山地区で電気柵をやるうとしていて。全

・「あんばいいい家コンテス」奇抜なものが多い。実用的な設計をすべきである。

袖崎地域

・湯舟沢く五十沢林道は完成まで何年かかるのか。総予算はどれくらいか。
・「まるごと日本」からの撤退はどういうことか。



・昔は農家一本で生活できた。今はできない。地方創生であれば農業を生かしていくべきか考えるべきではないか。
・村山市には大規模産直施設がない。高速インターでもできるし、大型施設が望まれる。
・旧大倉小グラウンドに防災ヘリが降りられるようにしてほしい。
・交付金はイベントに使ってきたが、次に繋がる事業として、大倉を知ってもらい、来てもらうため「フットパス整備事業」を始めた。市民センターの役割が大きく、専門員制度は続けてほしい。
・旧大倉小跡地の方向性は出せないのか。市としても有効活用してほしい。
・居合神社を観光的なものにできないか。
・大倉小が楯小に統合し、小学校後援会を設立して4年になるが、楯岡地域の支援は戸数の半分位、地域で子どもを育てる考えを持つてほしい。

・山交バスが走っているが、バス停まで遠く高齢者が苦労している。また料金が高いと感じている。袖崎にも市営バスを希望する。
・乳児の聴覚検査助成金はすばらしい。効果がある。続けてほしい。
・「ほっとな雪まつり」で冬火花を20発上げているが大変好評である。消防法の関係でこれ以

よりよい行政のための 視察 レポート

総務文教常任委員会

行政視察

5月15日～17日

千葉県松戸市・神奈川県横須賀市・東京都立川市にある東京消防庁の施設見学と3ヶ所の行政視察を行った。

松戸市では、小・中学校において、国からの教育課程特例校の指定を受け、「言語活用科」と言う新しい科目を設け、英語分野については、独自の教材を作り、日本語・英語教育を充実させ、思考力・判断力・表現力の育成を図っていくことを目標にしていた。

横須賀市では、横須賀の将来を担う子どもたちの国際コミュニケーション能力を育成するために、平成20年度からALT（外国語指導助手）の配置による英語指導を行っていた。私たちは、横須賀市立諏訪小学校を訪れ、5年生の英語の授業を参観してきた。日本人の先生とAL

Tの方との2名での授業で授業の内容は、英語で自己紹介の練習をしていた。

1年生から外国語活動として月1回の授業があり、5・6年生は外国語科として週2回の授業を行っていた。



諏訪小学校英語授業のようす

立川市では、東京消防庁 第8方面本部救助機動部隊（愛称は、ハイパーレスキュー隊）・東京消防庁航空隊多摩航空センター・東京消防庁立川都民防災教育センターの3ヶ所の見学を行い説明を受けてきた。3施設共立川飛行場の隣にあり、立地条件もよく、消防

救助機動隊には、各近隣の消防署の訓練場所ともなっており、消火活動の訓練なども、十分に行える設備を備えていた。各施設共大都市東京を守り、国内・海外派遣にも対応できる、組織・設備であることを感じてきた。

産業厚生常任委員会
行政視察
5月17日～19日

愛知県半田市。「マイレポはんだ」というアプリを活用した投稿ネットワークシステムについて研修。例えば、道路が陥没しているなどの状況があった場合、地元議員や行政委員を介して役所の担当課が情報を把握し対処するのが一般的だが、当アプリを利用することで不具合を発見した市民が直接投稿し、行政側も瞬時に情報を共有できる。実名でなくニックネームでの投稿もでき、運用から3年で566件、全投稿の約75%が

解決済み。当アプリには災害情報提供サービスを付加でき、災害時には視覚的に危険を察知できる。



愛知県大府市役所にて

愛知県大府市。健康長寿の一大拠点「ウェルネスバレー」の構想およびその構成施設について研修・視察。健康長寿食の開発、各種交流イベントの開催、腰サポーター、レストランのメニュー、ロードバイクスタンドの独自開発といったブランド事業を展開。その他認知症予防に向けたコグニサイズという運動を推進しており、公園などで実際に市民らが

るコーナーも設置されている。

滋賀県高島市。有害獣の被害対策について研修。本市よりも被害金額は少ないものの捕獲と里山整備の両面に注力。とりわけ、里山整備については、①防災②緩衝帯整備の2つの観点から滋賀県独自の補助金を財源に過去約10年間で19地域、34箇所の整備を実施。市と森林所有者および地元地区などで事業完了年度から5力年に渡り維持管理に関する協定を締結し、整備後の荒廃を防ぐ取り組みがなされている。



滋賀県高島市役所にて

百問は一見にしかず!!

地方創生対策

特別委員会

管内視察 6月8日

産業振興の観点から海老名委員長外5名で農業分野の視察を行った。農業は村山市の基盤となる産業だが、農業就業者の高齢化に伴い、産業構造が変化しており、法人化して農業に取り組む2法人と、食品加工業者の3ヶ所を訪問。印象に残ったのは、農業法人のどちらにも若手がいたことしかし、課題は3ヶ所共に働き手の確保であるという声を聞いた。生産年齢の人口減少が産業に影響を与え始めているという危機感を感じた。

①農事組合法人

天穂の里

稲下地域にミニライセンサーを設置して、共同作業による農作業受託事業を行い、地域の農地の受け皿となり、規模拡大に向けた作業効率の向上と生産コス

トの削減を図っている。平成27年4月に農事組合法人としてスタート。組合員は5名。



②株大高根ファーム

大高根地区にて、加工用のキャベツとレタスの大規模栽培に取り組んでいる。標高の高い山ノ内地区と田沢地区の標高差を利用して、出荷時期をずらして効率的な機械の稼働と安定供給を目指している。平成28年に成立し生産者は7名。出荷先は大石田の株マルニ鈴木食品。

③株マルニ鈴木食品

国産野菜を使用したカット野菜の製造販売

を行っている。地元の農家との契約栽培に積極的に取り組み、大高根ファームとの連携等産地の形成を後押ししている。



ホストタウン事業 ブルガリア共和国訪問

5月4日～12日

森議長、菊地教育長外4名でブルガリア共和国を訪問した。新体操ワールドカップ・ソフィア大会の運営と競技の視察、新体操ギゴヴァ前会長とラエヴァ会長、クラススポーツ大臣、スポーツアカデミー学長とそれぞれ懇談を行い、合宿地決定のお礼と今後の対応について話し合った。村

山を合宿地に選んだのは、東京でのミーティングが優秀で、三月に役員が来市した折の暖かな歓迎、体育館と宿泊所が隣接し温泉があることが決め手。ブルガリアの新体操は世界トップレベルで、東京オリンピックでは金メダルを目指している。競技会では、国技に近い新体操とあって、国旗を持つのでの大声援は圧巻でした。表彰式ではブルガリア選手コー



クラススポーツ大臣・ラエヴァ会長と

チに市長賞、議長賞、ローズキャンペーン賞を贈った。商工会議所会長との懇談、在ブルガリア日本大使館を訪問しホストタウン決定のお

駅伝応援 4月28日

4月27日から29日に行われた県縦断駅伝2日目、村山中継所で村山市議会議員が『燃える闘魂』の幕を手に各選手を応援した。村山までの区間は長い区間で難所もあり、選手は大変難儀なコース。北村山チームに村山市出身者は、選手4名役員6名で、3日間頑張った総合7位であった。



市民の声



高橋 夕子さん (田沢)

18年間、山形市内でネイルサロンを営んでいましたが、1人で農業をしている母を支えるため昨年、村山市に戻って来ました。

震災後から企業コラボで成人式のネイルチップ作成に携わり山形そして東北各県、現在では関東地域からの発注も増えました。

そのためサロンワークを終了し自宅にアトリエを設け製作品を各事務所へ発送しています。

お客様と接する機会はなくなりましたが、日中はスイカ

畑を手伝い空いた時間や夜にチップ作成を行い忙しい日々を送っています。先日はじゅんさい沼の草刈りに参加しました。

桜も散り緑が増え水面にはじゅんさいの絨毯が広がり、日々変わる空の色や自然はアートの参考にになります。

貴重な天然のじゅんさい沼ですが、毎年採取する人が減少しているのが現状です。

村山市にお住まいの方はどなたでも加入できるそうですので、お気軽に組合までお問い合わせ下さい。



成人式用ネイルチップ



自然アートのじゅんさい沼

〈表紙写真〉

村山市内の小学校で構成されたサッカーチーム 楯岡サッカースポーツ少年団です。村山市内を中心に週2～3回の練習を行っています。1年生から年代別で試合を経験し、高学年の選手の中には地区代表の選手も在籍し、日々切磋琢磨して子どもたちが楽しくいきいきと活動しています。



地方創生講演会開催のご案内

- 目的 農林水産業を中心とした地域活性化、農商工連携・6次産業化、更に人口減少の現状と課題と地域主体となる活性化対策を考えることなどについての講演です。
- 日時 平成29年8月9日(水) 午後3時～5時
- 場所 村山市改善センター 多目的ホール
- 講師 木村俊昭 東京農業大学教授

皆様のご参加をお待ちしております。



- | | |
|------|--------|
| 委員長 | 大山 正弘 |
| 副委員長 | 川田 律子 |
| 委員 | 長南 誠 |
| | 結城 正 |
| | 石澤 祐一 |
| | 高橋 菜穂子 |
| | 菊池 大二郎 |

新編集委員に高橋菜穂子委員を迎えての発行となりました。よろしくお願いたします。

東京オリンピック大会に向けブルガリア新体操チームが事前キャンプを村山市で実施しました。

今年から四回のキャンプを行います。東京オリンピックへ向けたキャンプとしては日本初です！皆さんで「ゴールデンガールズ」を応援しましょう。

編集後記